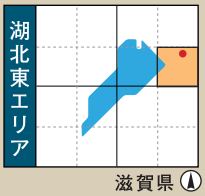
史跡
県指定

大吉寺跡（だいきちじあと）

浅井町野瀬　昭和40年8月9日指定



姉川とその支流草野川が削り込んだ、細長く険しい地塁上に、大吉寺跡があります。長い歴史の流れの中で、現在では建物の跡と、石造物が残るのみとなっていますが、訪れる人も少ない、山中にある堂々とした寺院の跡は、古代の人達がかけた信仰への情熱を今に伝えています。

当時のできごと	
866年	応天門の変 伴善男ら流罪
1160年	源頼朝伊豆へ配流
1572年	三方ヶ原の戦い

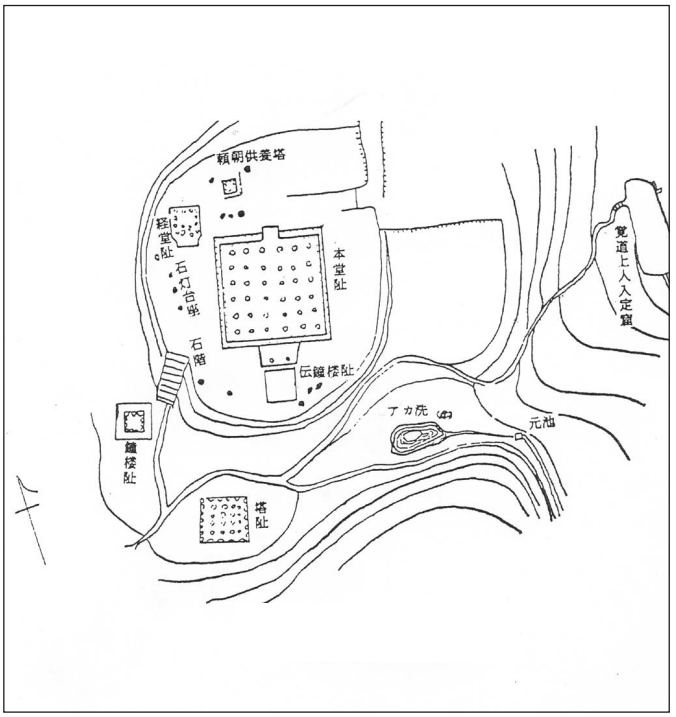
大吉寺跡の歴史

大吉寺は、暦応元年（1338）の勧進帳によれば、貞観7年(865)に在地の豪族浅井治家と延暦寺の僧安然の協力により建立されたとされる天台宗の寺院です。『吾妻鏡』『平治物語』には、平治元年(1159)の平治の乱の後、源頼朝が逃れ、大吉寺に匿われことが記されています。この縁からか、大吉寺は鎌倉幕府の庇護を受け、寺領3700石の記録も見えます。室町時代に至り、やはり幕府の庇護を受けますが、大永5年（1525）の六角定頼の兵火、元亀3年（1572）の織田信長による攻撃などにより、寺運が衰退し現在に至っています。

大吉寺跡の遺構

大吉寺跡は、野瀬の集落の北東、草野川と姉川が削り込んだ険しい地塁上、標高約750mの尾根斜面上の平坦地にあります。この平坦部に本堂跡を中心とする本坊があり、この付近の平坦地に49院ともいわれる小院が営まれていたと考えられます。本坊の遺構は、上段の平坦部に5間×5間の本堂跡、経堂跡、鐘楼跡の、三棟の建物遺構と1基の石造宝塔が、下段には鐘堂と塔跡の遺構及び閼伽池と呼ばれる池が残ります。また、斜面を降った小平坦地には、鎌倉時代の僧、覚道上人の入定窟と伝えられる石室が残ります。





大吉寺跡伽藍配置図



覚道上人入定窟



覚道上人入定窟

山岳信仰

山は、狩猟民にとっては獲物を与えてくれる場であり、農耕民にとっては水を与える水分（みくまり）の神の住まうところであり、また、霊仙山の名を頂く山があるように、祖先の魂の宿る場所として崇められてきました。この山に対する素朴な原始神道的な信仰に、外来の密教的な仏教が習合して、いわゆる山岳仏教が生まれました。

山岳仏教の最も早い例として、延暦7年（788）の最澄による延暦寺の開基を挙げることができ、その後近江には、天台宗を中心として、数多くの山岳寺院が建立され、独特の宗教的な歴史空間を形成しています。このことは、伊吹山、比良、鈴鹿の山々など、美しく恵みの豊かな山を擁する近江の自然の特質に根ざした歴史性でもあります。

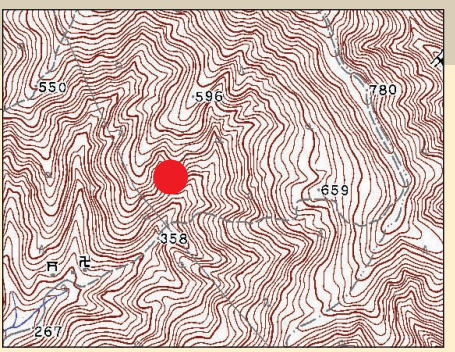
今、私たちは、自然と人間の関係の見直しを迫られています。遺跡を通し、祖先が山に抱いた崇敬の想いを知り、この想いを失わなければ、自然と人間との関係に、調和を失うことは無いはずです。

関連する文化財

弥高寺跡（伊吹町）	学習シートNo.059
松尾寺跡（米原町）	米原町上丹生山中にある天台山岳寺院。多くの文化財が残る
己高山高尾寺遺跡（木之本町）	己高山山中の山岳寺院跡。本堂跡、行者屋敷、坊跡が残る

もっと深く知りたい

浅井町教育委員会　☎0749-74-4359　東浅井郡浅井町内保2490-1



大吉寺跡へのアクセス

JR北陸本線　虎姫駅下車
北陸自動車道　長浜インター

【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月